



# ぴっぴだより

No.2 2023.4.28

「二年目の今、感じていること」

保育者になり、二度目の4月。涙のどんぐりさんたちを見ていると去年のことを思い出します。私と同級生のまつぼっくりさんたちも、一年前は毎朝の別れに涙…そんな彼らも今では泣いているどんぐりさんたちを見ながら「同じだね～」と言っている姿や、おおきいくみの生活を堂々と楽しむ姿に子どもの育ちのすごさを感じています。初めてのことに戸惑い、たくさん困って成長してきた子どもたち。蜂が怖くて涙したり、雨の日に手が寒くて涙したり、友達と上手いかずに涙したり、寒すぎる冬に涙したり・・・きっと一筋縄ではいかなかった経験の一つ一つが彼らの逞しさの秘訣だと思っています。子どもたちに限らず、たくさん困り、迷いながら成長しているのは大人も同じです。保育者もひとり一人違う子どもと向き合う方法に悩み、目の前の子どもたちに翻弄され、一筋縄ではいかない逞しい子どもたちと丁寧に向き合っていく日々…その一つ一つが大きな学びです。ぴっぴでの生活が積み重なり、年々逞しさが増していく子どもたちの姿は本当に頼りになります。ひとつ上のグループになったことで、「もうおおくりだから!」「小さい子には優しくして!」「やってみたい!」大きくなっている自分を信じて、自分らしく進んでいく様子は本当に輝いていて自然保育と呼ばれる保育の良さを感じています。

私は元々、短大卒業後の進路は“発達支援の道”と心に決めていました。障がいのある子どもたちにも自然体験を…と思い、気軽な気持ちで「やまほいく探検隊」という自然保育に関わる短大の活動に参加しました。やまほいく探検隊の活動で、伊那市のはらぺこさんを視察させて頂いた時の事。特性のあるなしに関わらず、すべての壁を越えて混ざり合う子どもたち、先生と子どもではない関係性、教え込む場ではない保育の現場を見て、私は横っ面を殴られたような衝撃を受けました。自然保育ってすごい!こんなに理想的な育ち合いは他にない!支援ではない障がい児保育の可能性に出会い、私の胸は高鳴りました。自然保育への思いは膨らみ興奮冷めやらぬまま、まゆさんの講義でぴっぴの保育に出会うことになります。

エピソードで語られる子どもたちは生き生きとしていて、関わる保育者も子どもと丁寧に生きていました。障がいがあってもこんな環境が保証されていたらいいのに…。幼児期に本当に必要なことはこういう経験なのではないか?同じ年齢、何にも代えがたい幼児期なのに、発達支援施設の子どもたちは訓練と呼ばれる行動を毎日のようにする必要があるのだろうか?発達支援って本当に意味のあることなのか?机に向かって穴の開いた丸に紐を通すことが人生の何に役立つの?私の中でたくさんの疑問が生まれ、現実と理想の間を行ったり来たり…。

発達支援施設では日常動作や生活訓練がメインです。幼児らしい自由遊びや豊かな生活体験を  
保証することが難しい環境にあります。生活の質は施設にもよりますがあくまでも施設は施設  
であり、保育とは本質が異なる場である為、子どもの豊かな経験は施設には求められないの  
かもしれません。それでも一定数のこどもたちは、保育園や幼稚園で生活する時間以上に発達支  
援施設で幼児期を過ごしています。まだまだ未熟な私ですが、自然保育が何かしらのきっかけ  
になっていくと思うのです。障がいのある子に必要なのは発達支援と呼ばれる訓練ではなく、  
ほんの一瞬の自然体験でもなく、子ども同士の関わりや、友達に受け止められる経験、心が動  
かされる多くの経験を子どもたちに保証していくことだと感じています。必要なのは丁寧な支  
援と呼ばれる隔離ではなく、同じ場所で混ざり合い育ち合う環境です。多様な人がいること  
を感じて、混ざり合い共に生きていくこと自体に価値がある。ぴっぴにはそんな夢のような環境  
が当たり前環境としてあると感じています。

自然保育に出会い憧れを持つようになり、学びを深めていくと、自然保育と呼ばれる保育は  
“暮らし”そのものをとても大切にしていると感じるようになりました。おおきい人、ちい  
さい人、いろんな気質の子、地域の人、保護者や保育者、年齢だってバラバラの多様な人が関  
わる環境の中で豊かに丁寧に暮らしている。それは、小さな小さな社会です。多様な人が当  
たり前に存在する環境は大人が暮らしている社会環境によく似ています。保育者になって一年が  
過ぎ、小さな社会の一員として自然保育に関わりましたが、学生時代から感じていたこの思い  
に変わりはありません。小さな社会の中で、たくさんの壁にぶつかって、思い通りにならない  
経験を重ねながら、かけがえのない“自分”に自信を持っていく日々。いろんなことが嫌になる  
こともあるけど、それでも私ではない『人』と繋がって生きていく。思い通りにならないこと  
は自然との関わりにもあり、私ではない『あなた』はその場にたたずむ木や花や生き物『自然』  
だったり…。多様な『あなた』と繋がり合うことが自然にある保育。繋がり共に生きる以上に  
大切なこと、楽しいこと、必要な経験はないはずです。人生の喜びは私ではない『あなた』と  
の間に生まれるものだと思います。

今はまだ少数派の保育ではありますが、きつとこの丁寧な保育が世の中を大きく変えていく  
きっかけになっていくと信じています。ぴっぴという小さな社会から、世界という大きな社会  
を変えていく大人が育っていきますように。私ではない『あなた』と繋がり合う“幸せ”を感じ  
ながら、また一年を丁寧に過ごしていきたいです。

: 佐藤美典

# 森と絵本と巡る季節

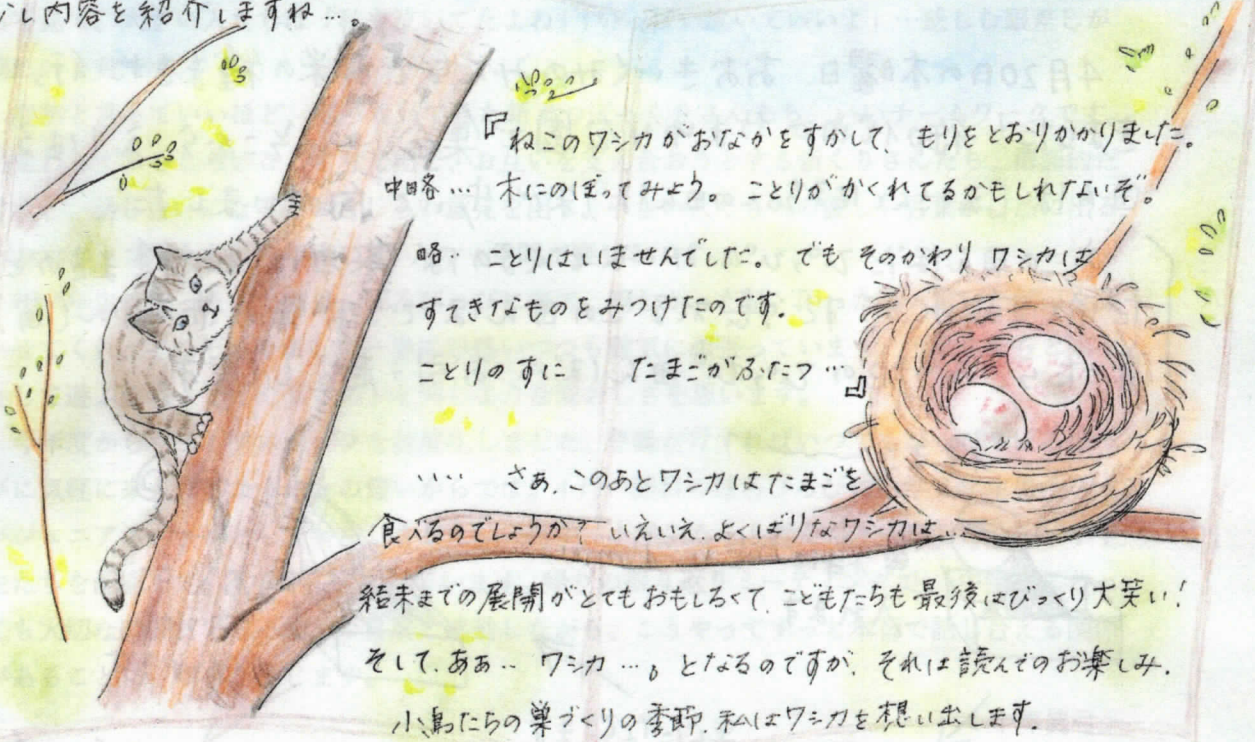
# 5月

美しい新緑の季節を迎えた森。朝、夕には鳥たちのにぎやかなコーラスが響きわたります。

この新緑の季節は鳥たちにとっては大切な結婚、家づくり、子育ての季節でもあります。

そんな季節に森で読みたい絵本はこらら♪ **フォロワ民話「よこばりワシカ」** (福音館) です。

少し内容を紹介しませぬ...



『ねこのワシカがおなかをすかして、もりとおりかかりました。中々... 木にのぼってみよ。ことりがかくれているかもしれないぞ。』

略... ことりはいませんでした。でもそのかわりワシカはすてきなものをみつけたのです。

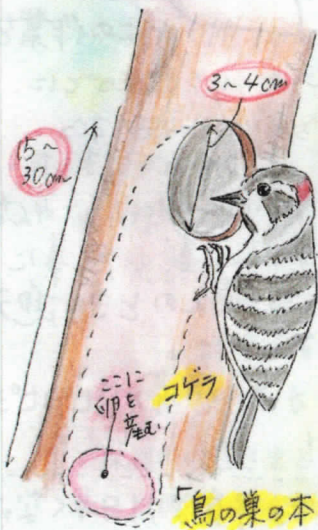
ことりのすに たまごがふたつ...』

... さあ、このあとワシカはたまごを食うのでしょうか？ いえいえ、よこばりなワシカは...

結末までの展開がとてもおもしろくて、こどもたちも最後はびっくり大笑い！

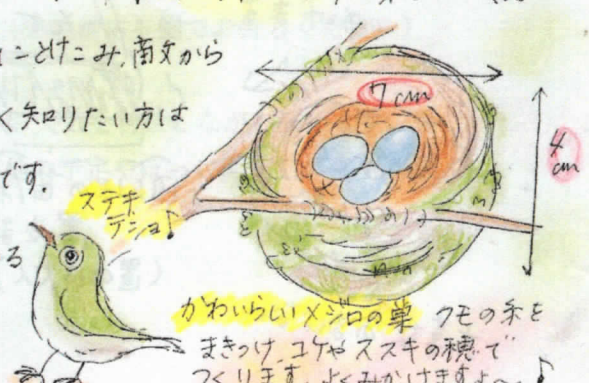
そして、ああ... ワシカ... となるのですが、それは読んでのお楽しみ、小鳥たちの巣づくりの季節、私はワシカを想い出します。

先日、娘と森を歩いていて、キツツキが巣を作っているところに出会いました。ワシカに登場した鳥は草ワラのゆわもで巣を作っていたようですが、キツツキはその名の通り、木の幹(枯れた木などが多い)をつついて巣をつくります。それはそれは美しい丸い入り口なのですが、その後、下へと押し進み、一番奥で卵をあたためます。ちなみに卵の色は鳥によって様々ですが、キツツキは暗い樹洞でわかりやすいよう白色です。春を告げてくれるウグイスはチョコレート色の卵、メジロは水色、ピロピロの森でよくみかけるシジュウカラは自地に赤褐色の模様です。樹洞以外の場所にも巣をつくる鳥にはいづれも巣や、その場所に対しては、南天からカモフラージュしています。もっと詳しく知りたい方は



『鳥の巣の本』鈴木孝典著 (岩崎書店) もおすすめです。

美しい新緑とともに、巣づくりに、子育てに、と活動している小鳥たちの姿をみつけてみて下さいね！ : 菜々恵



かわいらしいメジロの巣、その糸をまきかけ、コゲヤスキの穂でつくります。よこみかけますよ〜♪

# たはたたより

(田畑だより)

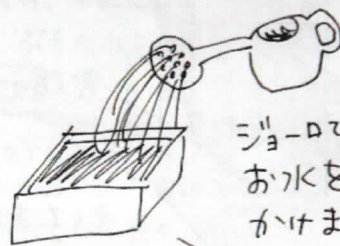
4月20日の木曜日、おおきくみのみなでお米の種まきに行きました！御代田のやまゆり公園で集合して、そこからえりはる田んぼ(えりさんとはるちゃんの田んぼ)まで歩いて向かいました。

※この田んぼにひひのみんなでくるとは基本はこの種まきのときだけです。水がすぐ引かれるこの田んぼでお米の赤ちゃん(苗)を育てたら、発地のひひ田んぼへお引越します。

## 種まき



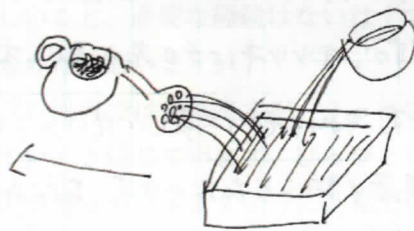
苗箱に土を入れます。



ジョーロでお水をかけます。



平らになります。(板を使って)



上にさらに土をかけます。平らにならしてジョーロでお水をかけます。



もみ殻くん炭をかけます。



お米の種をまきます

この作業を

学年ごとに

3~5人ずつ

わかれてしました。

ていねいに伝えてみんなが

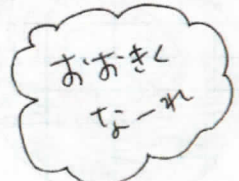
まいた種...無事に

育て田植えのときを迎え

られますように。

4月26日、かわいい芽がピョピョ

出ていました！



大事な おまじない



田んぼの苗床にそーと置きます。(置のは大人)

雨予報で急ぎよ予定より1日早くなったじゃがいも植えも、おおきくみのみなで終わることができました！春は大忙しですね。保護者のみなさまも、ご協力ありがとうございます！ はるこ